

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100404		
法人名	社会福祉法人 朋友会		
事業所名	グループホームたけべ 1F		
所在地	岡山県岡山市北区建部町建部上557-2		
自己評価作成日	令和 3 年 2 月 8 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JlgyosyoCd=3390100406-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JlgyosyoCd=3390100406-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山県岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 3 年 2 月 26 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

天然温泉のお湯で日々の入浴をして頂き、敷地内の別建物には旭川を眺めながら入れる足湯がある。季節に合わせたイベントや施設内の装飾を行い、利用者様に四季を感じて頂けるように心がけている。利用者様に楽しんで生活して頂ける様、毎日様々なレクリエーションを行っている。利用者間の関係作りも大切にしており、初めての利用者さんでも自然と利用者間で打ち解ける様に配慮し、ホームで生活する「家族」としての関係を築いて頂ける様に努力している。また、酒・煙草等の嗜好品も家庭との延長と捉え、日課の中に組み込んでいます。ご家族様が気兼ねなく面会に来て頂けるように、面会時は近況を報告したり毎月広報紙を発行して日常の様子をお伝えしている。電話などでの連絡の際には行事の案内などを行っている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設の扉の前に立つと否や裏の方から急に現れて、「応答してくれましたか」と、声をかけてくれた好青年がいた(後で聞くと施設長)。ドアを開けると管理者の「こんにちは」と丁寧な挨拶で迎えられ、利用者の笑顔と弾む会話が隙間越しに飛び込んできた。コロナ禍の制約が多い中、様々なレクや企画(動く回転寿司の作品)を身近で継続できる様に企画を楽しんで、今できることを発案し、利用者もそれに答えている姿を垣間見た。また、それを後押しする管理者もいるではありませんか?人間臭さが溢れる風通しの良いほのかな施設に、近所の人から「こんにちは」「おかえりなさい」「いってらっしゃい」「たがいま」・・・と、心の扉を当たり前に向け広げる声は耳奥に奏でられた。心の癒せる人が自然と集い、長閑な地とフィットしながら温かさや安らぎをしとしと注ぎ込んでいた。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念、事業所目標を掲示し、各理念、目標に合ったケアを実施、困難事例の際には理念に振り返っている。	各リビングとスタッフルームに理念を掲示し、毎朝の申し送り時に唱和して共有している。個人を尊び、生き生きと過ごして頂ける様に、趣味嗜好を出るだけ叶えている。入職者には、マニュアルを使って理念が浸透する様にしている。	玄関や既存の場所に掲示している理念をもっと大きくし、他の場所にも掲示して、家族に理解してほしい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を実施し施設の取り組み等を発信するとともに地域の情報を吸収。一部ではあるが地域行事への参加を行っている。	町内の溝掃除に常に参加している。隣の社会福祉協議会が毎朝しているラジオ体操にベランダから参加したり、リビングや居室の窓越しに、地域の方や小学生・自転車の学生さんに挨拶を交わしたりしている。地域交流をできる限り行おうとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族様、地域の方からの相談があればお聞きし、運営推進会議で上がった認知症に対する対応方法の相談などに助言を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で上がった提案や行事に関する情報をできる限り取り入れ、日常のサービスに活かしている。	行事や利用者の様子やサービスの質の向上への取り組みを報告書にして委員に郵送し返信を頂いている。地域包括・区長・社会福祉協議会・保健師が参加。コロナ関連では、職員のストレスに関する質問に、毎月の人材サポート会議で解決策を講じ、取り組んだ旨を報告した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括連携会議に参加し、運営推進会議でも地域包括支援センターの職員より情報を取り入れている。	窓口は管理者で、電話やファックスで気軽に相談出来る関係となっている。隔月開催の社会福祉協議会主催の地域包括連携会議にも各部署ごと参加するが、欠席の場合は、他部署より情報を頂き共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修の実施、また身体拘束に結びつく可能性があるBPSDを議題にしたの会議、取り組みを毎月実施している。	身体拘束はしていない。毎月の会議の議題に、身体拘束廃止に関する項目を盛り込んでいる。言葉遣いやスピーチロックに関する事が最近のトピックとして取り上げ、普段からの言葉遣いに留意している。また、2ユニットの職員全員が持ち回りで講師役となり実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な施設内研修を行い、外部研修にも積極的に受講し学んだことを持ち帰り他職員に伝達している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方もおられるので少しずつ制度の理解ができています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はお話しのしやすい環境、雰囲気作りを心がけ、ゆっくりと一つずつ納得して頂けるよう説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に日々の状況を報告し、変化などがあれば随時電話での連絡を行っている。要望などは直接職員に伝えて頂くか意見箱に投書頂いている。	面会制限を設けているので、玄関や扉越しで意見や要望を集め実践に役立てている。また、何かあったら、随時家族へ電話をして対応している。差し入れる物ややり方を話し合っ、行政からの指導内容とすり合わせながら事業所独自のルールを構築し職員と共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見の交換を行い、普段の業務中でも意見は随時交わし働きやすい環境を目指している。	職員会議で業務の取り組み方やシフト繰りをオープンに話し合っている。また、キャリア形成を目的に一時的に休職して復職された方もいる。職員のプライベートな事も、親身になって聞ける環境が出来上がっていて、5年以上の永年勤続者も多い。復職もそうだが、職員も自分の気持ちを叶え易いので、安心できる職場となって力を注いでいる。	様々なレクリエーションを企画して、広がりを持ってきているが資格をアップして、介護の深堀に追及をして、施設の質を確保してほしい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人材サポート会議を開催し、常にサポート会議メンバーが職員の悩み等を聞き働きやすい環境を目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修に外部の講師を招き研修を行うほか、施設外の研修に積極的な参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括連携会議に参加したり、研修などで知り合った他施設の職員との交流をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテークは本人と接する最初の段階なので本人の表情、しぐさに重点を置き話やすい雰囲気心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設で生活することについての不安を取り除けるように状況報告や広報紙での報告を行っている。急な依頼などにもできる限り対応できる様に心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームで可能なケアの内容を伝え、対応が困難な場合は他の事業所やサービスを紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者同士がより良い関係を保てるように職員でフォローを行い、積極的に残存機能を使用した生活ができるように支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	基本的な対応は職員が行っているが、ご家族様にも行事の参加や一緒に外出の声掛けを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間を20時としているが状況によってご家族様の希望にそえる様にしている。	広大な自然が広がる施設の立地を生かして散歩をしたり、敷地内の喫茶店で喫茶タイムを過ごしたりしている。また、サツマイモやニンニク、法蓮草などの園芸栽培を通じて、馴染みになっている場所で昔取った杵柄を発揮している。また、2階と行き来したり女子会をしたりして、日々の暮らしにメリハリを与えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席順や利用者同士の性格を考慮しバランスのとれた席の配置を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も可能な限りの相談援助を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望、しぐさ、表情をもとにケアを実施し、困難な場合は理念に戻って実施している。	入浴時や食時後に『明日来る?』『休み?』『淋しいわ~そうなん?』と漫談の様なやり取りで意向を汲み取っている。表現しにくい方には、そわそわしている表情や目運びの矛先を見ながら快不快を察しながら次のケアに繋げる事で安心や納得を提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートでの情報の他に、可能な限りご親族の方から情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活パターンを把握し、表情の観察を行いその時々にあつた対応を実践できることを目標としている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回のモニタリングを行い、本人、家族の希望を最大限取り入れている。困難な場合はご家族様と話し合いの場を設けるようにしている。	本人と家族の意向を元に入所時に立てた仮のケアプランで、一か月の経過を見て本プラン決定している。以後、日々の記録を蓄積して3か月毎にモニタリングを実施し、協力医や施設の看護師といった医療職の意見からプランを見直している。その他、一時入院など、状態の変化に応じて随時プランを見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	行動、言葉を詳細に記録し、第3者が見ても分かるように記録の書き方に注意している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の急な依頼にも柔軟に対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出張健康体操等を行い、地域との関係を保てるように支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回の訪問診療でご本人様が日々の生活で訴えられていることを代弁、ご家族様のご意向などを主治医に伝えている。	入居時に、殆どの方が協力医に転院される。専門医は他科へ、原則は、職員が受診を介助するが、家族も受診介助に協力的。協力医は隔週往診する。協力医とは24時間対応をしてもらえる関係。歯科は必要時に往診可能。看護師が常勤と非常勤の2名いるので、協力医、専門医と医療連携しやすい。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を常勤配置しているので、都度状態の報告・対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報を速やかに伝達し、入院中の状態についても電話や訪問し把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについて再度主治医を交えて説明、確認を行い、積極的にご家族様に訪問して頂きケアを行う一員としての役割を担って頂いている。	看取りをしていて、去年は2人看取った。入居時に、終末期について説明するが、揺れ動く家族感情に配慮して提案をしたりケアの方向性を定めている。デスカンファレンスは、亡くなって一か月内に開催。看取りの質の向上に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変に備えAEDや心肺蘇生の研修を行っている、急変時の対応マニュアルも手の届くところに掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練、また災害時に職員と町内の方が協力し合えるように緊急連絡網想定しての訓練マニュアル、非常時の防災食を用意している。	年2回、火災と地震の訓練を昼夜想定分けて実施し、避難経路や連絡網は周知している。停電を想定して自家発電機を設置し、備蓄は、建物の2階に3日分を用意(レトルトカレー・白米・牛丼・水・おかゆ)している。今後は、賞味期限が切れる前に、炊き出し訓練や運営推進会議の場で試食する事を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人に合った話し方、声のかけ方を意識し、ホームで生活する一員として個人を大切にするように心がけている。	呼称は、苗字に『さん』付け。表現が困難な方には、絵や言葉を記述して選択して頂き、本人の意思を尊重している。どの方にも、ノックをしてからの入室を心がけ、入浴やトイレの時の肌を露わにする場合は、事前に言葉をかけてタオルをかけた後、服の脱がせ方を工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	小さなことでも本人に決定を促している、オープン・クローズドクエスチョンを使い分けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のペースを可能な限り乱さない生活リズムを心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や散髪に関しては本人で決めていただき、本人から希望があればアドバイスを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き等を行って頂いている。献立の説明や楽しく会話しながら食事をしている。	法人の調理場から調理されたものを各事業所が受け取り、盛り付けをして提供している。品書きにご当地メニューを載せ楽しめる様している。菜園で入居者と育てた野菜を収穫して薬味やあしらい、おやつに使い好評である。行事や節句の献立も食を進め、箱膳やお重、弁当で提供する日もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士と相談し、その方に合った食事形態、栄養を考えている。常に嚥下や摂取の状況を確認し把握するように心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアをして頂けるように促し、希望に合わせて歯科の受診を行っている。お一人お一人に合わせた口腔ケアの方法を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて排泄のリズムを把握し、声掛けや誘導を行っている。おしめから布パンツに変更できるようにしている。	排泄リズムを把握しているので「排泄はトイレを使用する」を基本方針として継続し取り組んでいる。衛生管理を今まで以上に注力して、どの職員が排泄ケアをしたかを記入している。ポータブルトイレは、夜間のみといったように、どうしても必要な方にのみ使用。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然な排便ができるように、食物繊維や乳製品を摂取して頂き排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な入浴の曜日は決めさせて頂いているが、その日の本人の気分や状態に合わせて入浴日を変更して対応している。	週2回の入浴。天然温泉を利用して、腰痛、肩こり、神経痛に役立っている。「服を脱ぐのがイヤ」、「寒いからイヤだ」といった様に嫌がる方には、タイミングや言葉のかけ方を利用者の好みに合わせて投げかけて、浴室にお連れし、湯上りには「気持ちよかった」と笑顔になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態や仕草を観察して臥床を声掛けしたり、お一人お一人の生活リズムに合わせた対応を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬がすぐに分かるように個別にファイルしている。服薬前に誤薬防止のため職員2名で薬が本人様のものであるか確認し、本人に合った服薬の方法を実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	在宅生活で行ってきたこと(酒・煙草等の嗜好品)が引き続き実施できる環境作りを心掛け、洗濯たたみなどの役割を持って生活して頂いている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事での外出以外に、普段の生活の中で積極的に外出を取り入れ、希望に応じて自宅に帰ったり柔軟な対応を行っている。また嗜好品の買い物なども希望時に行っている。	近所のスーパーに車で連れ出したり、敷地内のプランターに散水したり、散歩を日課にされる方もいる。どうしても外出出来なくなってしまった方には、窓辺で景色を眺めてもらったり、風にあたってもらったりする。職員が外で摘んできた花を生けて、季節を五感として癒やして頂いている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身で管理可能な利用者様に対しては本人様で管理して頂き、買い物などの際には見守りにて本人で支払いを行えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話をかけたり、居室内に電話を設置されている方は自由にご家族様、ご友人と連絡を取られている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じれるように施設内の装飾など季節に合ったものを設置している、装飾品を利用者様と一緒に作成するなどもしている。	ステンドグラスと妖精の石像が玄関で出迎え、雰囲気や柔らかげている。時節柄、ひな人形を飾り、実際に回転する精密な折り紙の回転ずしが壁面に飾られていて、ユーモアとリアルさを添えている。採光や気温、湿度も適切で、広いベランダから日の光を身体いっぱい浴びる事が出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配慮やテーブル配置を都度見直して、その時々合った配置をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人様のなじみのある物を持ってきて頂けるようご家族様に依頼している。持ち込みに関しては基本的に制限を行っていない。	どの居室からも山々が見渡せ、旭川を望める居室もある。位牌や遺影、テレビ、思い出のある家具や調度品が、本人に使いやすく配置されている。介護用ベッドは、備え付けられ、安心度が高い。共有空間での過ごし方と対症的に、一人で落ち着ける空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人様が使いやすい、動きやすい環境を提供し目印などを設置しご本人様がわかるようにしている。		

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100404		
法人名	社会福祉法人 朋友会		
事業所名	グループホームたけべ 2F		
所在地	岡山県岡山市北区建部町建部上557-2		
自己評価作成日	令和 3 年 2 月 8 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JlgyosyoCd=3390100406-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JlgyosyoCd=3390100406-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山県岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 3 年 2 月 26 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

天然温泉のお湯で日々の入浴をして頂き、敷地内の別建物には旭川を眺めながら入れる足湯がある。季節に合わせたイベントや施設内の装飾を行い、利用者様に四季を感じて頂けるように心がけている。利用者様に楽しんで生活して頂ける様、毎日様々なレクリエーションを行っている。利用者間の関係作りも大切にしており、初めての利用者さんでも自然と利用者間で打ち解ける様に配慮し、ホームで生活する「家族」としての関係を築いて頂ける様に努力している。また、酒・煙草等の嗜好品も家庭との延長と捉え、日課の中に組み込んでいます。ご家族様が気兼ねなく面会に来て頂けるように、面会時は近況を報告したり毎月広報紙を発行して日常の様子をお伝えしている。電話などでの連絡の際には行事の案内などを行っている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設の扉の前に立つと否や裏の方から急に現れて、「応答してくれましたか」と、声をかけてくれた好青年がいた(後で聞くと施設長)。ドアを開けると管理者の「こんにちは」と丁寧な挨拶で迎えられ、利用者の笑顔と弾む会話が隙間越しに飛び込んできた。コロナ禍の制約が多い中、様々なレクや企画(動く回転寿司の作品)を身近で継続できる様に企画を楽しんで、今できることを発案し、利用者もそれに答えている姿を垣間見た。また、それを後押しする管理者もいるではありませんか?人間臭さが溢れる風通しの良いほのかな施設に、近所の人から「こんにちは」「おかえりなさい」「いってらっしゃい」「たがいま」・・・と、心の扉を当たり前に開け広げる声は耳奥に奏でられた。心の癒せる人が自然と集い、長閑な地とフィットしながら温かさや安らぎをしとしと注ぎ込んでいた。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念、事業所目標を掲示し、各理念、目標に合ったケアを実施、困難事例の際には理念に振り返っている。	各リビングとスタッフルームに理念を掲示し、毎朝の申し送り時に唱和して共有している。個人を尊び、生き生きと過ごして頂ける様に、趣味嗜好を出るだけ叶えている。入職者には、マニュアルを使って理念が浸透する様にしている。	玄関や既存の場所に掲示している理念をもっと大きくし、他の場所にも掲示して、家族に理解してほしい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を実施し施設の取り組み等を発信するとともに地域の情報を吸収。一部ではあるが地域行事への参加を行っている。	町内の溝掃除に常に参加している。隣の社会福祉協議会が毎朝しているラジオ体操にベランダから参加したり、リビングや居室の窓越しに、地域の方や小学生・自転車の学生さんに挨拶を交わしたりしている。地域交流をできる限り行おうとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族様、地域の方からの相談があればお聞きし、運営推進会議で上がった認知症に対する対応方法の相談などに助言を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で上がった提案や行事に関する情報をできる限り取り入れ、日常のサービスに活かしている。	行事や利用者の様子やサービスの質の向上への取り組みを報告書にして委員に郵送し返信を頂いている。地域包括・区長・社会福祉協議会・保健師が参加。コロナ関連では、職員のストレスに関する質問に、毎月の人材サポート会議で解決策を講じ、取り組んだ旨を報告した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括連携会議に参加し、運営推進会議でも地域包括支援センターの職員より情報を取り入れている。	窓口は管理者で、電話やファックスで気軽に相談出来る関係となっている。隔月開催の社会福祉協議会主催の地域包括連携会議にも各部署ごと参加するが、欠席の場合は、他部署より情報を頂き共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修の実施、また身体拘束に結びつく可能性があるBPSDを議題にしたの会議、取り組みを毎月実施している。	身体拘束はしていない。毎月の会議の議題に、身体拘束廃止に関する項目を盛り込んでいる。言葉遣いやスピーチロックに関する事が最近のトピックとして取り上げ、普段からの言葉遣いに留意している。また、2ユニットの職員全員が持ち回りで講師役となり実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な施設内研修を行い、外部研修にも積極的に受講し学んだことを持ち帰り他職員に伝達している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方もおられるので少しずつ制度の理解ができています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はお話しのしやすい環境、雰囲気作りを心がけ、ゆっくりと一つずつ納得して頂けるよう説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に日々の状況を報告し、変化などがあれば随時電話での連絡を行っている。要望などは直接職員に伝えて頂くか意見箱に投書頂いている。	面会制限を設けているので、玄関や扉越しで意見や要望を集め実践に役立てている。また、何かあったら、随時家族へ電話をして対応している。差し入れる物ややり方を話し合っ、行政からの指導内容とすり合わせながら事業所独自のルールを構築し職員と共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見の交換を行い、普段の業務中でも意見は随時交わし働きやすい環境を目指している。	職員会議で業務の取り組み方やシフト繰りをオープンに話し合っている。また、キャリア形成を目的に一時的に休職して復職された方もいる。職員のプライベートな事も、親身になって聞ける環境が出来上がっていて、5年以上の永年勤続者も多い。復職もそうだが、職員も自分の気持ちを叶え易いので、安心できる職場となって力を注いでいる。	様々なレクリエーションを企画して、広がりを持ってきているが資格をアップして、介護の深堀に追及をして、施設の質を確保してほしい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人材サポート会議を開催し、常にサポート会議メンバーが職員の悩み等を聞き働きやすい環境を目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修に外部の講師を招き研修を行うほか、施設外の研修に積極的な参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括連携会議に参加したり、研修などで知り合った他施設の職員との交流をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテークは本人と接する最初の段階なので本人の表情、しぐさに重点を置き話やすい雰囲気心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設で生活することについての不安を取り除けるように状況報告や広報紙での報告を行っている。急な依頼などにもできる限り対応できる様に心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームで可能なケアの内容を伝え、対応が困難な場合は他の事業所やサービスを紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者同士がより良い関係を保てるように職員でフォローを行い、積極的に残存機能を使用した生活ができるように支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	基本的な対応は職員が行っているが、ご家族様にも行事の参加や一緒に外出の声掛けを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間を20時としているが状況によってご家族様の希望にそえる様にしている。	広大な自然が広がる施設の立地を生かして散歩をしたり、敷地内の喫茶店で喫茶タイムを過ごしたりしている。また、サツマイモやニンニク、法蓮草などの園芸栽培を通じて、馴染みになっている場所で昔取った杵柄を発揮している。また、2階と行き来したり女子会をしたりして、日々の暮らしにメリハリを与えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席順や利用者同士の性格を考慮しバランスのとれた席の配置を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も可能な限りの相談援助を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望、しぐさ、表情をもとにケアを実施し、困難な場合は理念に戻って実施している。	入浴時や食時後に『明日来る?』『休み?』『淋しいわ~そうなん?』と漫談の様なやり取りで意向を汲み取っている。表現しにくい方には、そわそわしている表情や目運びの矛先を見ながら快不快を察しながら次のケアに繋げる事で安心や納得を提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートでの情報の他に、可能な限りご親族の方から情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活パターンを把握し、表情の観察を行いその時々にあつた対応を実践できることを目標としている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回のモニタリングを行い、本人、家族の希望を最大限取り入れている。困難な場合はご家族様と話し合いの場を設けるようにしている。	本人と家族の意向を元に入所時に立てた仮のケアプランで、一か月の経過を見て本プラン決定している。以後、日々の記録を蓄積して3か月毎にモニタリングを実施し、協力医や施設の看護師といった医療職の意見からプランを見直している。その他、一時入院など、状態の変化に応じて随時プランを見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	行動、言葉を詳細に記録し、第3者が見ても分かるように記録の書き方に注意している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の急な依頼にも柔軟に対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出張健康体操等を行い、地域との関係を保てるように支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回の訪問診療でご本人様が日々の生活で訴えられていることを代弁、ご家族様のご意向などを主治医に伝えている。	入居時に、殆どの方が協力医に転院される。専門医は他科へ、原則は、職員が受診を介助するが、家族も受診介助に協力的。協力医は隔週往診する。協力医とは24時間対応をしてもらえる関係。歯科は必要時に往診可能。看護師が常勤と非常勤の2名いるので、協力医、専門医と医療連携しやすい。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を常勤配置しているので、都度状態の報告・対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報を速やかに伝達し、入院中の状態についても電話や訪問し把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについて再度主治医を交えて説明、確認を行い、積極的にご家族様に訪問して頂きケアを行う一員としての役割を担って頂いている。	看取りをしていて、去年は2人看取った。入居時に、終末期について説明するが、揺れ動く家族感情に配慮して提案をしたりケアの方向性を定めている。デスカンファレンスは、亡くなって一か月内に開催。看取りの質の向上に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変に備えAEDや心肺蘇生の研修を行っている、急変時の対応マニュアルも手の届くところに掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練、また災害時に職員と町内の方が協力し合えるように緊急連絡網想定での訓練マニュアル、非常時の防災食を用意している。	年2回、火災と地震の訓練を昼夜想定分けて実施し、避難経路や連絡網は周知している。停電を想定して自家発電機を設置し、備蓄は、建物の2階に3日分を用意(レトルトカレー・白米・牛丼・水・おかゆ)している。今後は、賞味期限が切れる前に、炊き出し訓練や運営推進会議の場で試食する事を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人に合った話し方、声のかけ方を意識し、ホームで生活する一員として個人を大切にするように心がけている。	呼称は、苗字に『さん』付け。表現が困難な方には、絵や言葉を記述して選択して頂き、本人の意思を尊重している。どの方にも、ノックをしてからの入室を心がけ、入浴やトイレの時の肌を露わにする場合は、事前に言葉をかけてタオルをかけた後、服の脱がせ方を工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	小さなことでも本人に決定を促している、オープン・クローズドクエスチョンを使い分けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のペースを可能な限り乱さない生活リズムを心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や散髪に関しては本人で決めていただき、本人から希望があればアドバイスを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き等を行って頂いている。献立の説明や楽しく会話しながら食事をしている。	法人の調理場から調理されたものを各事業所が受け取り、盛り付けをして提供している。品書きにご当地メニューを載せ楽しめる様している。菜園で入居者と育てた野菜を収穫して薬味やあしらい、おやつに使い好評である。行事や節句の献立も食を進め、箱膳やお重、弁当で提供する日もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士と相談し、その方に合った食事形態、栄養を考えている。常に嚥下や摂取の状況を確認し把握するように心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアをして頂けるように促し、希望に合わせて歯科の受診を行っている。お一人お一人に合わせた口腔ケアの方法を実施している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて排泄のリズムを把握し、声掛けや誘導を行っている。おしめから布パンツに変更できるようにしている。	排泄リズムを把握しているので「排泄はトイレを使用する」を基本方針として継続し取り組んでいる。衛生管理を今まで以上に注力して、どの職員が排泄ケアをしたかを記入している。ポータブルトイレは、夜間のみといったように、どうしても必要な方にのみ使用。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然な排便ができるように、食物繊維や乳製品を摂取して頂き排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な入浴の曜日は決めさせて頂いているが、その日の本人の気分や状態に合わせて入浴日を変更して対応している。	週2回の入浴。天然温泉を利用して、腰痛、肩こり、神経痛に役立っている。「服を脱ぐのがイヤ」、「寒いからイヤだ」といった様に嫌がる方には、タイミングや言葉のかけ方を利用者の好みに合わせて投げかけて、浴室にお連れし、湯上りには「気持ちよかった」と笑顔になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態や仕草を観察して臥床を声掛けしたり、お一人お一人の生活リズムに合わせた対応を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬がすぐに分かるように個別にファイルしている。服薬前に誤薬防止のため職員2名で薬が本人様のものであるか確認し、本人に合った服薬の方法を実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	在宅生活で行ってきたこと(酒・煙草等の嗜好品)が引き続き実施できる環境作りを心掛け、洗濯たたみなどの役割を持って生活して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事での外出以外に、普段の生活の中で積極的に外出を取り入れ、希望に応じて自宅に帰ったり柔軟な対応を行っている。また嗜好品の買い物なども希望時に行っている。	近所のスーパーに車で連れ出したり、敷地内のプランターに散水したり、散歩を日課にされる方もいる。どうしても外出出来なくなってしまった方には、窓辺で景色を眺めてもらったり、風にあたってもらったりする。職員が外で摘んできた花を生けて、季節を五感として癒やして頂いている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身で管理可能な利用者様に対しては本人様で管理して頂き、買い物などの際には見守りにて本人で支払いを行えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話をかけたり、居室内に電話を設置されている方は自由にご家族様、ご友人と連絡を取られている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じれるように施設内の装飾など季節に合ったものを設置している。装飾品を利用者様と一緒に作成するなどもしている。	スタンドグラスと妖精の石像が玄関で出迎え、雰囲気や柔らかさを演出している。時節柄、ひな人形を飾り、実際に回転する精密な折り紙の回転ずしが壁面に飾られていて、ユーモアとリアルさを添えている。採光や気温、湿度も適切で、広いベランダから日の光を身体いっぱい浴びる事が出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配慮やテーブル配置を都度見直し、その時々合った配置をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人様のなじみのある物を持ってきて頂けるようご家族様に依頼している。持ち込みに関しては基本的に制限を行っていない。	どの居室からも山々が見渡せ、旭川を望める居室もある。位牌や遺影、テレビ、思い出のある家具や調度品が、本人に使いやすく配置されている。介護用ベッドは、備え付けられ、安心度が高い。共有空間での過ごし方と対比的に、一人で落ち着ける空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人様が使いやすい、動きやすい環境を提供し目印などを設置しご本人様がわかるようにしている。		